

Lenovo



Official Technology Partner

実践における 人に寄り添った操作性

FIFAワールドカップにおける
グローバルワークプレイス進化からの教訓

Powered by



intel
vPRO

That's the power of
Lenovo with Intel Inside®

FIFAワールドカップの運営環境

人に寄り添った挑戦

FIFAワールドカップ2026は、世界で最も要求水準の高い運営環境のひとつです。テクノロジーは、チューリッヒの本部、マイアミなどの地域拠点、そして3つの開催国に設置される16以上の大会期間限定オフィス全体で、完璧に機能しなければなりません。こうした環境において、デジタル・ワークプレイスは単なる裏方機能ではありません。時間的プレッシャー、絶え間ない変化、世界中からの注目の中で働く人々を支える、ミッションクリティカルな基盤です。

**ワールドカップの開催周期において、
FIFAは多くの場合60日未満で
1万台以上のPCを配備します。**

FIFAワールドカップ2026に向けて、FIFAはPC、タブレット、モバイル機器を含む10,000台以上のデバイスを、限られた期間内に展開しています。その中にはインテル®搭載のLenovo ThinkPad X1およびThinkPad X9 AI PCも含まれます。これらのデバイスは、正社員、契約スタッフ、試合役員、ボランティア、メディアチーム、VIP運営担当者など、多様な人材を支えています。役割は頻繁に変化し、場所も急速に変わります。そして信頼性への期待は絶対的です。たったひとつの問題であっても、日々の運営に広範な影響を及ぼす可能性があります。

個々のデバイスに加えて、コラボレーション環境も大会運営に不可欠です。グローバルな連携には、本部、地域チーム、会場スタッフの間で、しばしばリアルタイムかつ複数言語にまたがるシームレスなコミュニケーションが求められます。会議室、運営センター、臨時のコラボレーションスペースは迅速に構築され、場所を問わず一貫して機能する必要があります。Lenovo ThinkSmartコラボレーションソリューションは、こうした環境における一貫性と信頼性の向上を支援し、チームが技術的なトラブル対応ではなく意思決定と実行に集中できるようにします。

この環境では、エンドユーザーだけでなくITチームにとっても、認知的負荷が大きくなります。スタッフは新しい情報を素早く吸収し、変化する要件に適応し、遅延が許されない瞬間にもシステムを稼働させ続けなければなりません。IT組織にとって、これは継続的な運用負荷、限られた回復時間、そしてミスの余地がほとんどないグローバル運営を支える中で常につきまとう疲弊リスクを意味します。

時間の経過とともに、こうした要求はITの対応能力を消耗させます。チームは実行業務に追われ、基盤プロセスの近代化や将来の成長計画に割ける余力が限られてしまいます。FIFAが必要としていたのは、人間中心の運用モデルでした。長期的なレジリエンスを支え、スケールを可能にし、実際の人々と実際のワークフローを中心に設計されたモデルです。LenovoはFIFAと緊密に連携し、エクスペリエンス、コラボレーション、セキュリティ、拡張性をデジタル・ワークプレイスに直接組み込むことで、グローバルな大会運営の要求に応えながら、より持続可能な働き方を可能にする基盤づくりを支援しています。

3

アメリカ、メキシコ、
カナダの3か国で開催

16

16都市の
各拠点で開催

10K

1万7千台の
デバイス



人に寄り添った 操作性を支える基盤

FIFAの公式テクノロジーパートナーとして、Lenovoはデバイス、サービス、コラボレーションテクノロジーにまたがるフルスタックのAI主導ポートフォリオで、世界で最も視聴されるスポーツイベントを支えています。しかし、FIFAのワークプレイス進化の成功は、テクノロジーだけによってもたらされるものではありません。それを支えているのは、従業員体験、AI、セキュリティという3つの基盤の上に構築された、人間中心の運用モデルです。これらの基盤が組み合わさることで、人がテクノロジーに合わせるのではなく、テクノロジーがグローバルな大会運営の現実に適応できるようにしています。

“

私たちはその成果を大変うれしく
思っており、2026年と2027年に、
何百万人ものファンが史上最大規模の
FIFAワールドカップおよび
FIFA女子ワールドカップに集う中で、
Lenovoとのパートナーシップによる
さらなるイノベーションの導入を
楽しみにしています。

ティト・スアレス・ディアス氏
FIFA テクノロジー部門プロダクトおよび
ビジネスエンゲージメント責任者



実際に働く人々を中心にテクノロジーを設計・運用する

FIFAワールドカップの規模と緊張感において、従業員体験は定性的な指標ではなく、運営成功を左右する要因です。Lenovoは従業員体験を運用上の規律として捉え、FIFAとともに、プレッシャー下で人々がどのように働くかを起点に、デジタル・ワークプレイスのあらゆる側面を設計しています。画一的なデバイスモデルを展開するのではなく、LenovoはFIFAと連携し、デバイス、設定、コラボレーションツールを、特定の役割、環境、ワークフローに合わせて最適化しています。本部スタッフ、会場運営担当者、移動の多い幹部、臨時スタッフはそれぞれ異なる要件を持っており、デジタル・ワークプレイスはそれに応じて調整されています。

主要な大会では、Lenovo デジタル・ワークプレイス・ソリューションの専門家がFIFAのITスタッフと現場で共闘。

迅速な問題解決とスムーズな連携で、常に一貫したサポート体制を実現します。

展開プロセスそのものも、業務への影響を減らすように設計されています。手厚い1対1のオンボーディングにより、ユーザーは電源を入れた瞬間から業務に使えるデバイスを受け取ることができます。

展開は、夜間のリフレッシュや役割ごとの展開時間帯など、実際の運用リズムに合わせて計画され、重要な期間におけるダウンタイムを最小限に抑えます。拠点を移動したり役割が変わったりする従業員にとって、この一貫性は、集中が最も求められる瞬間の摩擦と認知的負荷を軽減します。

従業員体験は、個々のデバイスだけでなく共有環境にも及びます。グローバルな大会運営は、本部、地域拠点、会場間のシームレスなコラボレーションに依存しています。Lenovo ThinkSmartコラボレーションソリューションは、会議室、運営センター、臨時のコラボレーションスペースを標準化し、拠点をまたいで一貫したAI強化型の音声・映像体験を提供します。これにより、チームは時差や言語を越えてリアルタイムに連携でき、トラブルや不統一な会議室テクノロジーによって勢いを失うことはありません。

重要なのは、LenovoがエンジニアをFIFAの運営に直接組み込んでいる点です。Lenovoデジタル・ワークプレイス・ソリューションの担当者は、FIFAのITスタッフと連携して業務を行っており、主要イベント時には社内チームと見分けがつかないほど密接に協働しています。この近接した体制により、迅速な解決、円滑な連携、一貫性のあるサポートが可能になり、同時にサステナビリティ目標も支援します。その結果、生産性、信頼性、安心感を実現する従業員体験が設計されています。

#1

生産性の向上こそが、IT責任者が従業員体験の改善に投資する最大の理由です。



手作業を減らすインテリジェントな自動化

重要度の高い運営環境において、AIが最も価値を発揮するのは、日々の業務から摩擦や手作業を静かに取り除くときです。FIFAにおけるLenovoのAIアプローチは、複雑さを持ち込むのではなく、FIFAチームとともに人とプロセスを支援する実用的なインテリジェンスに重点を置いています。

インテル®搭載のLenovoAI PCは、この戦略において中心的な役割を果たします。ローカルでのAI処理を可能にすることで、これらのデバイスはより迅速なインサイト取得を支援し、クラウド接続への依存を減らし、遅延や帯域制約が業務を妨げる可能性のある環境でパフォーマンスを向上させます。

自動化は、裏側の運用ワークフローにも適用されました。自動化されたプロビジョニングと設定チェックにより、限られた期間で展開される数千台のデバイス全体で一貫性を確保できます。標準化された検証プロセスにより、デバイスの準備状況に対する信頼性が高まり、重要な局面で表面化し得る設定ミスリスクを低減します。また、データに基づく計画により、大会スケジュールに沿った段階的かつ役割別の展開を支援します。

オンデバイスAIにより、要約、セマンティック検索、データ分析などのタスクを、より迅速かつ安全に実行できます。

IT運用において、自動化と高度な分析は反復的な手作業の削減に役立ちます。自動化されたトリアージと根本原因分析により問題解決が加速し、ITチームはより価値の高い活動に集中できます。この変化により、IT組織は人員を比例的に増やすことなくサポートを拡張できます。これは、激しいピークと急速な移行を特徴とする環境に不可欠な能力です。

AIを将来の理想として位置づけるのではなく、LenovoとFIFAは、効率性、一貫性、レジリエンスを支える実用的な手段としてAIを運用に組み込もうとしています。常に、そのテクノロジーを使う人々に奉仕する形です。

80%

80%以上の従業員が、生成AIによって
コラボレーション、創造性、生産性、
そしてエンゲージメントが向上すると
期待しています。



人、デバイス、データを守る セキュア・バイ・デザインの運用

FIFAワールドカップにおけるセキュリティは、後付けのものとして扱うことはできません。世界的な注目、臨時インフラ、高いモビリティを持つ人材が組み合わさることで、脅威環境は絶えず変化します。しかもその環境は、より高速で標的型であり、検知が難しいAIを活用した攻撃によってますます形づくられています。LenovoはFIFAと協力し、新しい枠組みを押し付けるのではなく、FIFAの内部セキュリティフレームワークに沿ったセキュア・バイ・デザインのワークプレイス運用モデルを設計しています。

**Lenovoのエンジニアは、
試合や主要イベント中にオンサイトで
ゼロダウンタイムのサポートを提供し、
セキュリティ態勢を損なうことなく
問題を解決します。**

セキュリティコントロールは、現実のリスクプロファイルに合わせて調整されています。本部スタッフ、スタジアム運営担当者、現場要員ではリスクへの露出度が異なることを踏まえ、デバイスとアクセスポリシーは役割、場所、環境に基づいて設定されています。事前に強化された設定と安全な初期設定により、人的ミスとAI主導の脅威の両方から生じるリスクを軽減します。特にスピードと正確性が重要な高圧環境で効果を発揮します。

運用上のセキュリティは現場にも及びます。Lenovoのエンジニアは、試合や主要イベント中にオンサイトでゼロダウンタイムのサポートを提供し、セキュリティ態勢を損なうことなく問題を解決します。継続的なデバイス追跡、リモートロックおよびワイプ機能、統合されたライフサイクル可視化により、デバイスが頻繁に移動・再割当てされ、紛失リスクが高い環境でも機密データを保護できます。

同じく重要なのは、セキュリティが運用を遅らせるのではなく、支えるように設計されていることです。セキュリティを展開、サポート、ライフサイクル管理に直接統合することで、LenovoはFIFAがユーザーやITチームに負担を増やすことなく強固な保護を維持できるよう支援しています。たったひとつのミスが重大な結果を招きかねない環境では、このバランスが不可欠になります。

17%

.....
2027年までに、全サイバー攻撃の
17%が生成AIに関わるものになると
予想されています。

Lenovoデジタル・ワークプレイス・ソリューションをご覧ください。

Lenovo デジタル・ワークプレイス・ソリューションが、グローバルなサービス提供、AIによるサポート、コラボレーション支援ソリューション、統合エンドポイント管理、インテル®搭載のLenovo AI PCをどのように組み合わせ、企業の迅速かつ大規模なモダナイゼーションを支援するのかをご紹介します。

**Lenovoがワークプレイス運用をどのように
再設計できるかをご確認ください >>**



自社で人に寄り添ったオペレーションを適用する方法

特に負荷が高く、メンバーが分散している環境において、デジタル・ワークプレイスの運用を点検・強化するために、ぜひこのチェックリストをお役立てください。

人のワークフローから始める。

- ① 役割、場所、モビリティに基づいて主要な従業員ペルソナを定義する。
- ① 実際のワークフロー、コラボレーションパターン、利用条件を整理する。
- ① 摩擦が大きい場面や障害ポイントを特定する。

人を中心にコラボレーション環境を設計する。

- ① 会議室、運営センター、共有スペースを標準化する。
- ① チームの会議や働き方に合わせてコラボレーションテクノロジーを整える。
- ① 拠点やタイムゾーンをまたいで一貫した体験を確保する。

柔軟な提供モデルを構築する。

- ① モジュール型で再現性のある展開フレームワークを確立する。
- ① 迅速なオンボーディング、再展開、役割変更を可能にする。
- ① ハイブリッドな提供モデル（リモートとオンサイト）を支援する。

業務が行われる場所にサポートを組み込む。

- ① オンボーディングや大きな移行時にサポートを統合する。
- ① 引き継ぎや手動のエスカレーション経路を最小限にする。
- ① 現場のプレッシャーが高まる時期に足並みを揃え、サポートモデルを適応させる。

自動化によって人の負担を軽減する。

- ① 反復的なプロビジョニングとサポート業務を自動化する。
- ① エラーリスクを減らすために設定を標準化する。
- ① トリアージ、検証、解決を加速するためにAIを活用する。

デバイスの全ライフサイクルを持続可能な形で管理する。

- ① 資産ではなく体験を中心にライフサイクル管理を設計する。
- ① デバイスを安全に展開、再展開、回収、廃棄する。
- ① サステナビリティと循環型ITの実践をガバナンスに組み込む。

AI主導のワークプレイスにおける体験を測定する。

- ① 生産性発揮までの時間とオンボーディング効率を追跡する。
- ① 自動化率とAI支援による解決状況を監視する。
- ① 導入状況、満足度、回避できたエラーを測定する。
- ① 実際の稼働環境でサービスレベル契約を評価する。



次のステージ

AI主導の時代に向けて、 人に寄り添ったオペレーションを進化させる

人に寄り添ったオペレーションは、もはや他社と差別化するための要素ではありません。複雑で分散した、そして高プレッシャーな環境で戦う組織にとって、不可欠な要件です。FIFAのグローバルワークプレイス進化は、テクノロジーが実際の人々、実際のワークフロー、現実の条件を中心に設計されたとき、組織は単なる運用安定性以上のものを得られることを示しています。組織は、レジリエンス、拡張性、そして要求の変化に合わせて継続的に適応する力を得るのです。

**実際のユーザーや業務、そして現場の現実的な条件に即してテクノロジーを設計すること。
それこそが、組織にレジリエンス、
スケールメリット、そして長期にわたる
安定性をもたらす鍵となります。**

AIがデジタル・ワークプレイス全体に組み込まれるにつれ、その重要性はますます高まります。AI主導の自動化、インテリジェントなコラボレーション、オンデバイス処理は働き方を変えていますが、その価値は、それらがどれだけ適切に運用へ組み込まれるかに完全に左右されます。

意図的な人間中心の設計によって、AIは実用的な優位性になります。ワークフローを効率化し、次のステップを明確にし、従業員とITチームがより意味のある、影響力の大きい仕事に時間を使えるようにします。

Lenovoデジタル・ワークプレイス・ソリューション(インテル®搭載のLenovo AI PCを含む)は、ワークプレイスの次の進化に向けた実証済みのアプローチを提供します。体験中心の設計、AIによるインテリジェンス、セキュア・バイ・デザインの運用を統合することで、Lenovoは組織がコントロール、ガバナンス、サステナビリティを大規模に維持しながら、自信を持ってモダナイズできるよう支援します。

Lenovoが世界で最も困難な運用環境のひとつであるFIFAを支援できるのであれば、よりスマートで、よりレジリエントで、AIに対応したワークプレイスを構築したいあらゆる企業にも、同じ原則を適用できます。働き方の未来は、デバイスだけで決まるものではありません。それらのデバイスがどれだけ知的に、そして人間的に展開・管理・体験されるかによって決まります。

Lenovoがもたらす、 これからの働き方の新たなスタンダードを ご覧ください。

FIFAワールドカップの全体像をご覧ください、
その背後にあるソリューションを知り、
人間中心でAIに対応したオペレーションを
自社に導入する方法をご確認ください。

詳しく見る >>

¹Based on Lenovo internal data.

²Lenovo, *The World's Gone Football™*, 2025.

³Lenovo, *Lenovo Work Reborn Research Series*, 2025.

⁴Gartner®, *Gartner Forecasts Global Information Security Spending to Grow 15% in 2025*, 2025. GARTNER is a registered trademark and service mark, and IT Symposium/Xpo is a trademark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally, and are used herein with permission. All rights reserved.